

生育は回復傾向ですがほ場差、個人差大 最適な水管理でストップ・The・不稔！

J A たきかわ 営農部
空知農業改良普及センター中空知支所滝川分室

■ 幼穂形成期から予測される前歴期間と冷害危険期

幼穂形成期は、「きらら 397 (成苗)」の作況ほでは7月2日に迎えており、平年より3日程度遅れています。まず、自分のほ場の幼穂形成期を確認しましょう。

表-1 幼穂の伸長からみた幼穂形成期の判定

幼穂形成期後日数	幼穂形成期	1日後	2日後	3日後	4日後	5日後	6日後	7日後	8日後
幼穂長	2mm	3	4	5	13	22	30	43	57

表-2 幼穂形成期からみた前歴期間、冷害危険期等の予測

(J A たきかわ管内、成苗：5/22～5/26 移植) ※平年値はきらら397

	幼穂形成期	前歴期間	冷害危険期	止葉期	出穂期
ほしのゆめ	6/28	6/29～7/10	7/11～7/18	(7/16)	(7/25)
きらら397	7/2	7/3～7/13	7/14～7/21	(7/19)	(7/28)
※平年値	6/29	6/30～7/11	7/12～7/18	7/16	7/25

■ 不稔を少なくする水管理を徹底

幼穂の伸長に合わせて、水を徐々に深くし水温で保温することが重要です。この期間の中干しは絶対避けましょう。入水は早朝に行い、かけ流しは厳禁。

●前歴期間は、花粉の数を多くする時期です。

→ 水深5～10cmにして、水温25℃以上を保とう！（割粳も減少）

●冷害危険期は、花粉を充実させる時期です。

→ 低温時は可能な限り（最大20cm）深水にして水温を23℃以上に。

■ 不稔を抑え、登熟、食味を良くするケイ酸追肥

今が、ケイ酸追肥の最適な散布時期です！

ケイ酸資材：粒状ケイカル、粒状ミネカル、ゆめシリカなど

幼穂形成期7日後に施用 20kg/10a当たり

幼穂形成期：7月2日 → ケイ酸追肥：7月9日